



## クジラはどうして潮をふくの

### 潮は、クジラの息

クジラは、海の中でくらししていますが、魚の仲間ではなく、陸でくらす人間やイヌと同じ仲間の、ほ乳動物です。海中で、赤ちゃんにおっぱいを飲ませて育てます。

ですから、魚のように水の中で呼吸できる「えら」ではなく、人間と同じように肺で呼吸しています。そのため、ときどき海面に顔を出して、鼻からいっきに息をはき出し、大量に空気を吸っては、また、海にもぐるということをくり返しています。潮ふきといわれるのは、このはき出した息が、冷たい海面で白く湯気のように見えるのです。寒い朝、ハアッと息をはき出すと、息が白く見えるのと同じです。鼻のくぼみや体についた海水も、息といっしょに、細かい霧のようになってふき上げられるので、白く見えるともいえます。

### 潮ふきの形で、クジラの種類がわかる

クジラの鼻は、頭部のてっぺんにあって、息を出し入れするとき以外は、鼻のあなは、閉じられています。潮ふきでふき出す空気の量は、大型のクジラだと、1～1.5秒間で1500リットルにもなります。ふき上げる潮の高さも、いちばん高く上げるシロナガスクジラで、6メートルにもなります。また、鼻のあなの形などによって、ふき上げられる息の形がちがってきます。そのため、捕鯨船が遠くからクジラの種類を見分けるのに、潮ふきの形をめやすにしていました。

(監修・今泉 忠明)

